

八代市教育委員会学校
教育推進の基本方向「一
人一人を大切に、人権
尊重の精神に立った学
校をつくる」

校 訓 「 尊敬 愛情 信頼 」

学校教育目標・目指す子供像

「 自ら学ぶ子供 」

～自己有用感をもち、主体的・協働的に行動する八代っ子～

熊本県教育大綱（基本
方針）
「子どもたちの『夢』
を育む（熊本の人が
育む）」

目指す学校像

一人一人の子供が輝く学校
一人一人の教員が力を発揮できる学校

重点的に育成を目指す資質・能力

「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力」「共感できる力」「自立性」（規範意識）

重 点 取 組 事 項

確かな学力（知性）の追求

社会が急速に変化し、自ら正しく学ぶことが重要視されている現在、子供たちが学習に興味・関心をもって意欲的に取り組み、主体的に活動する中で、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく子供を育成する。

豊かな心（感性）の追求

社会性の欠如に起因する様々な問題が増えている現在、子供たちに、相互扶助や協調性、道徳性など、集団生活の中で養われる人間的な資質を形成していくことは、学校教育の大きな責務と考え、他人を思いやる優しい心をもった子供を育成する。

健やかな体（理性）の追求

将来、社会へと羽ばたいて行く子供たちにとって、人生の大事な岐路において的確な判断と行動ができる力をもつことは大切である。そこで求められる自立心と強い意志、そしてそれを支える強健な身体をもった子供（困難に直面しても諦めない子供）を育成する。

○**確かな学力を追求すると**：「主体的、対話的で深い学び」を通して、子供が課題に対して主体的に立ち向かい、わくわくが連続し、子供に「わかった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる。

【具体的取組】児童が主体となって活躍する場面の設定→単元のゴールの姿をイメージした学習過程の構想、子供の問いや思いを引き出す「課題設定」、子供が学びを深める「学び合い」、子供の学びをつなぐ「振り返り」の充実、能動的・継続的な家庭学習及び定着確認（診断テストの定期的実施+賞賛と補充）ICT機器の活用促進（eライブラリー・スタディサプリの活用含む）

○**豊かな心を追求すると**：自己有用感を高められ、積極的な発言や行動、人との活発な関わり、思いやりある言動につながる。

【具体的取組】自己有用感を高める取組（「その子供に応じて褒める、達成や成功体験を積ませる」「子供の話をしつくり聞いたり話しかけたりする」「一人一人に活躍の場を与えて、見守り、やり遂げさせ、達成感を味わわせる」「子供同士が認め合う場の設定」など）の実施、道徳科教育の充実、児童会活動や係・当番活動の充実

○**健やかな体を追求すると**：人と関わりながら、よりよく生きるための素地や基礎体力を身につけられる。

【具体的取組】「やつしろスピリッツ」及び「自分の心に線を引く」（自律・規律）、生徒指導の4機能（裏面参照）を活用した学級経営の充実、ボランティア活動・清掃活動・読書活動の推進、基本的な生活習慣の定着、「ランランタイム」の継続的な実施

【教育課程の編成と実施】

- 地域・家庭との連携・協働により、「社会に開かれた教育課程」（カリキュラム・マネジメント）を実現し、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。
- 全教育活動において、「聴く・伝える・つなげる学習」を意識させ、資質・能力を培う。
- 自己有用感を高めることを念頭においた学校行事や各種取組の工夫（PDCAによる改善）。

【指導の充実】

- 学校いじめ防止基本方針に基づいたいじめの未然防止と早期解消を学校総体で取り組むために、情報集約担当者を設置する。
- 「教師は最大の教育環境である」「自分が源泉」の自覚のもと、愛情と使命感をもつ。
- 児童理解に基づいた「認め・褒め・励まし・伸ばす」指導を継続する。（特に挑戦を賞賛する）
- 個に応じた指導を充実させる。（ケース会議等）

【指導体制の充実】

- 幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校において、義務教育終了時に期待する（願う）姿を共有し、指導の連携を図る。（小中一貫・連携教育、6校園の取組の充実と確実な実施）
- 校内外における研修の充実やOJTの推進、ミドルリーダーの育成等により、教職員の資質向上を図る。
- コミュニティ・スクールや地域学校協働活動に係る学校運営協議会員や地域コーディネーター、PTA等と連携を図る。
- 学校評価をもとに、教育活動の点検と改善を図る。
- 関係機関と連携した訓練・体験の実施により、安全への主体的な態度を培う。

自己指導能力の育成のために、日々の教育活動（学級経営）において大切にしたいもの
（生徒指導の4機能）

- 1 児童に自己存在感を与えること
（児童に、教師や仲間から学級の一員として認められているという安心感をもたせること）
- 2 共感的な人間関係を育成すること
（児童に、教師や仲間から理解され、受け入れられているという安心感をもたせること）
- 3 自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること
（児童に、自分の考え、選択、決定が尊重されているという安心感をもたせること）
- 4 安全・安心な風土の醸成
（児童に、ルールが守られ、他者から傷つけられないという安心感をもたせること）

これを学校教育活動において（児童の実態に応じて）具現化し、改善・継続することで、学級経営を充実させ、学力向上やいじめ・不登校の未然防止・解消に繋げる。